

図書館だより



2020年10月

金木犀が香る季節が来て、朝晩はすいぶん冷え込むようになりました。
読書の秋です。たくさんの本を読みましょう。

図書館の本の中から、ぜひ読んでみてほしい本を紹介します。

流浪の月

凧良ゆう 著



愛情深く、世間の枠にしばられず育てられた
さらさ更紗は、両親を失い、伯母に引き取られる。
そこでの暮らしは息の詰まるようなものだった。
伯母の家に帰りたくない更紗はある日、いつも
公園に座っている青年、文の家について行ってしまう。
更紗は文との暮らしに居場所を見つけるが、世
間では少女誘拐事件になってしまっていた。

「どこもなにも尖ってないのに人を刺せる刃物
がたしかにあって、それに常識や正義感や善意
という名前がついているとき、一体どうすれば
いいのか」

普通の愛とは形が違ったとしても、お互いを必要としあう更紗と文がずっと幸せであるように願ってしまう、心震える作品。

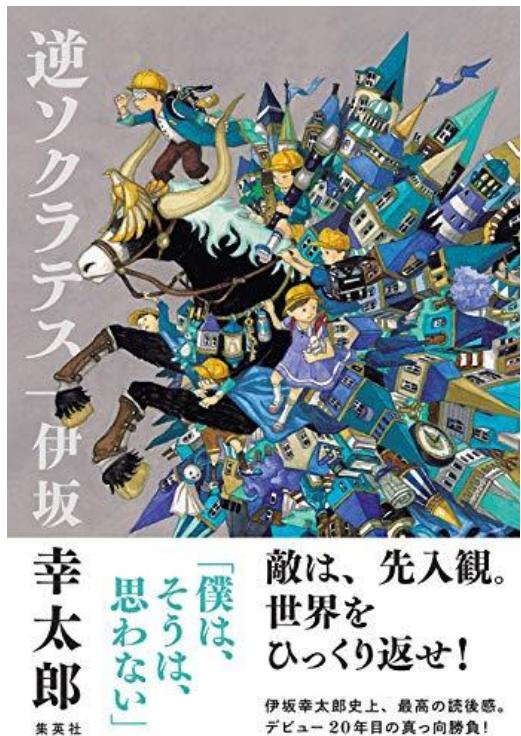
2020年本屋大賞受賞作です。

先生方にお聞きした「おすすめの本」のアンケートは職員室前に掲示してありますが、
図書館に「先生のおすすめの本」コーナーを作っています。
先生のお気に入りの一冊を、ぜひみなさんも借りて読んでみてください。

図書館では読みたい本が貸し出し中の場合、予約をすることができるようになりました。
また、みなさんからの本のリクエストもお待ちしています。
毎週木曜日は朝8時からと10分休憩も開館しています。
マンガを読みに来るだけでもOKですので、是非図書館に来てください。
本を読む前と後の手の消毒は忘れずに！

学校図書館補助員 富田

逆ソクラテス



小説 はたらく細胞



伊坂幸太郎 著

敵は、先入観。世界をひっくり返せ！
ものごとを決めつけて、それを押し付けてくる先生。
その先生にダメな子どもと思われている草壁。先生の
「先入観」を崩すため、クラスメートが協力して草壁
ができる子に仕立て上げる「逆ソクラテス」。
その他「スロウではない」「非オプティマス」「アンス
ポーツマンライク」「逆ワシントン」という5つの話
で構成されている短編集。主人公は小学生。
学校で日常に経験するような、でも正しい答えが見つ
けにくい不公平、偏見、いじめといった問題に、子
どもたちが立ち向かっていく。
読んだあと、爽やかな気持ちになって、また前を向い
て頑張ろうと思える作品です。
それぞれの短編の中の登場人物が他の話にも出てき
たりして、ニヤッとしてしまいます。

時海結以 著 清水茜 原作

その数、ひとりあたりおよそ37兆個(新説)。あなたの体の中で今日もはたらく、細胞たちの物語!
細菌に襲われそうになった方向音痴の新米赤血球を
助けてくれたのは、クールで眼光するどい白血球さん。
赤血球は体内に酸素などを運び、白血球は細菌などを
やっつける仕事をしています。
すり傷、インフルエンザ、花粉症、熱中症…。
小さな小さな細胞たちにつぎつぎふりかかる災難を、
おもしろく描いた大人気漫画のノベライズ。
体の中細胞の役割を楽しく知ることもできます。
第2巻もあります。